

院長の自由帳

ゴールデンウィーク前になりましたが、皆さんはどのようにお過ごしのご予定ですか？人それぞれだと思いますが、季節も良くアウトドア派の方々にとっては絶好の季節なのではないでしょうか！？

さて今回は「地域医療」について述べてみたいと思います。これまでにも少し触れたことがあります。地域の医療や介護は足りていると思いますか？現状どうなっているか知っていますか？

川尻・安浦近隣の医療機関や介護事業所は近年目に見えて減っていますが、呉や広では訪問看護ステーションを筆頭に増加しています。

同じ呉市でも旧市内はまだ増加しているが、平成の合併町などは過疎化が加速度的に進んできています。これは数十年以上も前にわかっていたことであり、当法人も約10年前から取り組みを始めておりましたが、コロナ禍で足止めをくらいましたが、現在は「つづ∞つな」として活動を復活しております。

しかしながら加速する過疎化についていけているかまだまだこれからと言うのが現状です。そんな中で一つ大きなプラス要素が川尻にあります。住吉先生のご子息が帰ってこられました。

私が週1回帰ってきたのが平成10年、平成12年には常勤となり、中光整形外科が平成13年に開業されて以降、医療機関は増えず私が川尻地区で最年少を28年間守り続けたという。これが現実でしたが30代の若手医師が増えたことは地域にとって大きな安心材料になると思います。

しかしながら医師も高齢化が進んでおり、川尻・安浦だけではなく呉市内全域での医療体制は大きく変わっていくと思われます。

当たり前のように呉市内で提供できていた医療も広島まで行かなければ受けられない、実際に心・血管手術は呉市内では受けられない状況になっています。産科もなんとかカバーは出来ているものの今後いつまで維持できるか疑問です。

今が当たり前ではなく今後を見通して行政にはしっかり対策していただきたいと思ひますし、国政で都心部ではなく地域医療に目を向けた医療介護制度を盛り込んでいただきたいと思ひます。

しかし、この6月から在宅医療関係はさらに厳しくなる模様です。これでは地域の在宅医療は崩壊するのではないかと心配になります。

もっと厳しいのは外来診療です。小児科は勿論、人口減少する中で患者さんは減少しかつ患者さんの利便性向上でどの医療機関も長期処方が増えている状況かと思われます。できるだけ待ち時間を減らすように努力もしておりますがこれらは医療機関にとってマイナス要素であり診療所でも3割は赤字になっており厳しい状況です。

それでも地域医療を担い永続していける組織を目指して取り組むには医師がもっと必要です。地域出身の医師が帰ってくることが理想ですが、他の地域、県外からでも温暖で豊富な食材が揃った過ごしやすい呉市で一緒に働いてくれる医師を募集しております。

またSNSを使い、より一層医師募集を強化してまいります。興味を持った医師や知り合いに医師がいる方々、どうかご支援ご協力をお願いします。